

■サーフィン検定

サーフィン検定は、受験者のサーフィンを規定の科目技量に沿って客観的に評価することで、受験者に現在のレベルを把握してもらうことを目的としています。また受験者には審査を通して出た課題点をジャッジからアドバイスすることで、さらなる上達を目指してもらう機会となっています。

検定種目はショートボード、ロングボード、ボディボードの各種目に1～5級の階級があり、それぞれの課題をクリアすることでステップアップする仕組みとなっています。また、検定を通してサーフィン愛好者の拡大やビギナーサーファーのルールとマナーを周知する機会にもなっています。

また、公認大会をはじめとする多くのコンテストでクラス認定級を基準としたクラス分けが行われており、クラスのレベル統一が図られているほか、NSAポイントランキングでも保持級が活用されています。

<審査員の条件>

1. サーフィン検定は日本サーフィン連盟公認ジャッジによって審査されます。
2. ヒートの審査はパネルジャッジ3名とマスタージャッジ1名以上が担当します。
3. 1.2級の検定を実施する場合、マスタージャッジは当連盟のジャッジ委員会及び教育委員会の承認を得た公認A級ジャッジが務めるものとします。

<マスタージャッジの役割>

1. 受験者にその日のコンディションや審査内容を説明してください。
2. 会場のコンディションを判断し、合格基準の見解をパネルジャッジに説明してください。
3. ヒートの審査では3名のパネルジャッジの可否の見解をまとめてください。
4. コンディションが審査する級に適應しない場合は、延期もしくは待機を判断してください。
5. 受験者に可否の結果を示し、審査での課題などの確なアドバイスをしてください。

<サーフィン検定の競技規定>

1. 1ヒートの人数は原則として1.2級は4人以内、3～5級は5人以内とします。
2. 1ヒートの審査時間は原則15分とし、原則ビーチスタートとします。ただし、コンディションなどの理由でヒート時間の延長や、ウォータースタートが望ましいと判断される場合は現場ジャッジの判断に従うものとします。また、ヒート時間内にすべての受験者が合格した場合はその時点でヒート終了となります。
3. 試技本数は6本とします。試技本数に達していなくても、合格の演技ができた時点でその選手の審査は終了となります。
4. ヒート中に妨害があった場合、妨害をした選手はそのライディングを1本にカウントし、その試技は無効とします。パドリング妨害は試技本数1本をカットされる。妨害をされた選手にはエクストラウェーブ1本を試技本数に追加します。
5. ヒート中でもジャッジは放送で選手の演技に対し指示をすることができます。

○サーフィン検定受験資格・規定科目技量

級	要求される技術	受験資格
5級	・ある程度の泳力があること。 ・パドルングをしてゲッティングアウトできること。 ・テイクオフしてある程度サーフボードの上に立つ事ができること ・ボディボードはキッキングを使ってテイクオフし、ある程度ライディングができること	どなたでも受験可能
4級	・5級の能力に加えてテイクオフから確実なターンをし、プルアウトできること。	5級取得者
3級	・テイクオフからレールを使ったターンで加速できること。 ・ショートボードは、リエントリーまたはカットバックが出来ること。 ・ロングボードは、ウォーキング・ウォーキングバックが出来ること。 ・ボディボードは、スピンまたはエルロロが出来ること。 ※3級以上にはボードコントロールが要求される。	4級取得者
2級	その日のコンディションに合わせたグッドスケールに入るライディングができることが合格の判断基準となる。 フリーライディングで、スピード、パワー、フロー、コントロールなどをジャッジクライテリアに沿って審査する。	3級取得者
1級	その日のコンディションに合わせたエクセレントスケールに入るライディングができることが合格の判断基準となる。 フリーライディングで、スピード、パワー、フロー、コントロールなどをジャッジクライテリアに沿って審査する。 2級以上の積極性、波を見る能力、ポジショニングなども審査の対象となる。	2級取得者

○各級の審査方法

（備考）4級から5級の審査について

4. 5級は試技本数の中で規定の技術ができれば合格です。（1ウェーブですべての技術ができなくても構いません）

< 5 級 >

5級の受験者はほとんどがビギナーですので、実施の際は波の状況等をよく見てライフガードまたはそれに準ずる担当者を配置し、安全面に十分注意を払ってください。

1. 泳力審査

ビーチと平行にある程度（目安25m）程度泳ぐことができれば合格です。（泳ぎ方は自由です）

2. ライディングの審査

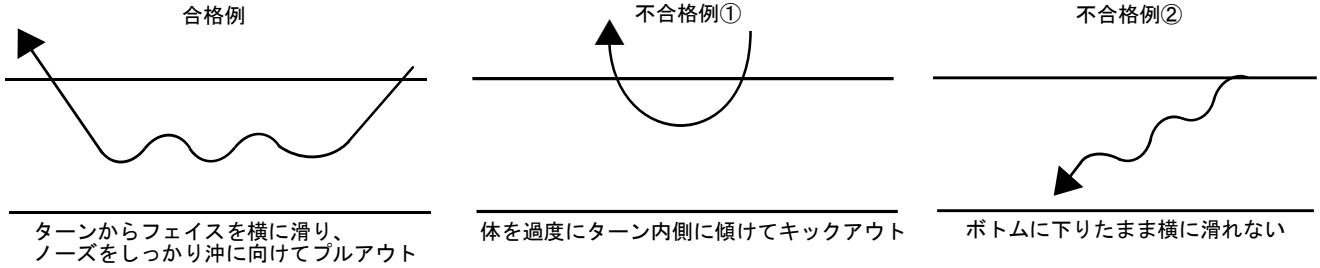
- ・パドルングの時にボードが安定していること
- ・テイクオフからある程度まっすぐ波を滑ること

以上ができれば合格です。

パドルングの時にボードが不安定だったり、テイクオフの動作（立ち方）が不安定だと不合格となります。

< 4 級 >

4級ではテイクオフから確実なターンをして、横に走ってからプルアウトできれば合格です。
ターンは、方向が変わればトップターン、ボトムターンのどちらでもよいですが、プルアウトは、危険回避を踏まえて確実に波の裏側に出ることが求められます。

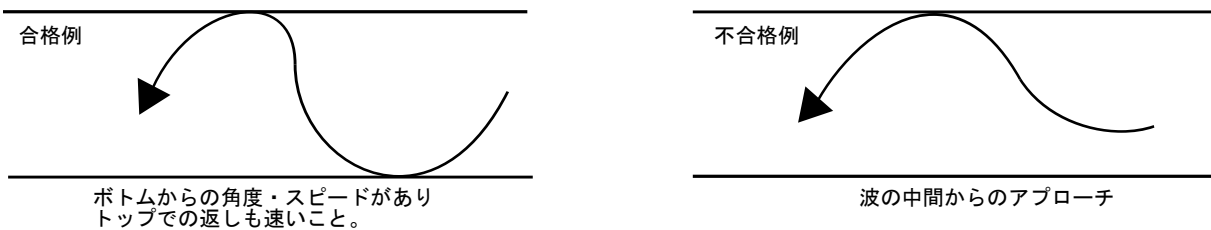


< 3 級 >

3級ではテイクオフからレールを使ったターンで加速できているかを審査する。
ショートボードは、リエントリーまたはカットバックができることが求められる。
ロングボードは、ウォーキング・ウォーキングバックができることが求められる。
ボディボードは、スピンまたはエルロロができることが求められる。
3級以上にはボードコントロールが要求されます。
※波の状況を見て、ショートボードはリエントリーかカットバック、ボディボードはスピンかエルロロどちらかやり易い方をアドバイスしてください。

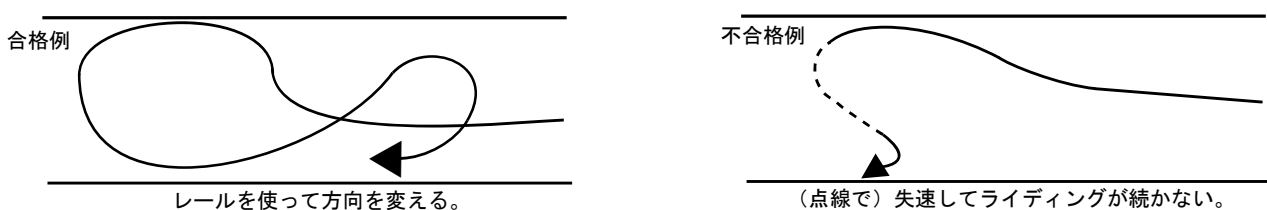
(リエントリー)

リエントリーは、ボトムからトップへアプローチできているかが求められる。波の中間からのアプローチは不合格となります。



(カットバック)

波のショルダーからボードの方向が変わり、スムーズにレールを使って次の動作に入る体勢ができているかが求められる。失速しているカットバックは不合格となります。



ロングボード3級の審査

(ウォーキング、ウォーキングバック)

ステップがスムーズか、動作の時にボードがコントロールされているかを審査する

ボディボード3級の審査

(スピン)

360度回り切れてライディングが続けられているかを審査する

※フォワードスピンまたはリバーススピンドちらでも可

(エルロロ)

エルロロは、レールを使ったターンでアプローチできているかが求められる。

< 1、2 級 >

1. 2級の審査基準、合格基準をわかりやすくするために、その年のジャッジクライテリアと採点スケールを導入して審査を実施しています。

審査はフリーライディングで行い、試技本数の中で規定科目技量に入るライディングが出来れば合格とします。

これまで、ロングボードはノーズライディング（ハングファイブ、ハングテン）、ボディボードはエルロロとフェイスでのフォワード、リバーススピンを取り入れることが1級または2級の合格条件となっていました。これらは「必須」ではなくなります。

しかしながら、これらのメジャーマニューバーを取り入れて演技することがグッドスケール（2級）、エクセレントスケール（1級）に入るポイントを出すには「近道」といえますので、その日のコンディションで合格するにはどのようなライディングが必要かを受験者にアドバイスしてください。